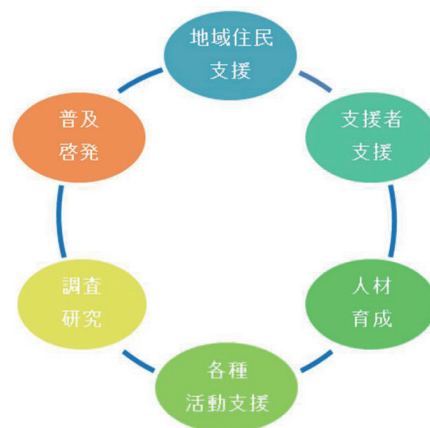


平成 25 年度事業項目別活動状況

事業項目について

平成 25 年度、みやぎ心のケアセンター（以下『本センター』という。）では、東日本大震災により心理的影響を受けた県内在住者及び宮城県から県外へ避難している方を心のケアの対象者としてとらえ、県民の方々がコミュニティの中で、一日も早く安心して生活できるよう、地域の実状に合わせた以下 6 つの事業を行った。



1. 普及啓発

心の健康について理解を深められるよう、広報誌の発行やホームページを通じた情報発信、啓発パンフレットの作成、研修会や講演等の事業を行った。

(1) 広報誌の発行

平成 24 年度に引き続き、本センターの事業についての周知、ならびに県内各地の状況を広く伝えるため『みやぎ心のケアセンター通信』を 3 回（7、10、2 月）発行し、県内の関係機関など約 500 ヶ所に配布した。平成 25 年度は新たに震災関連団体の紹介を行うなど、地域の情報を発信することに重点をおいて作成した。また、ホームページに広報誌のページを設け、いつでも閲覧できるようにした。

<広報誌発行状況>

5 号（7 月発行）	2,420 枚
6 号（10 月発行）	2,500 枚
7・8 合併号（2 月発行）	2,700 枚

(2) インターネットを活用した普及啓発

ホームページを平成 24 年度に開設し、本センターの活動並びに関連する研修や講演会等の情報提供を目的として運営している。平成 25 年度は計 17,464 件のアクセスがあった。

(3) パンフレットの作成・配布

平成 24 年度より、震災以降に懸念されていた PTSD、アルコール、うつ等の課題を扱ったパンフレットを作成・配布している。平成 25 年度は、アルコールに関する冊子の増刷や、認知症についてのパンフレットを新たに作成し配布した。現在計 10 種類を配布している。

<県内全域>

みやぎ心のケアセンターパンフレット 支援者向け (増刷)	3,800 部
みやぎ心のケアセンターパンフレット 一般向け (増刷)	3,000 部
飲酒により起こる症状や病気 (増刷)	3,000 部
認知症～みんなで支えるために～ (新規)	21,000 部

<気仙沼圏域>

公務員のためのメンタルヘルス&コミュニケーション術	3,000 部
啓発用 ポケットティッシュ (追加)	1,000 個

<石巻圏域>

メンタルヘルスセット (ストレスリリーサー、ヘルスチェックカード、こころの健康生活)	50 セット
啓発用 ポケットティッシュ (追加)	2,000 個

(4) 普及啓発研修

自治体や関係機関の要望に応じ、住民 (一般住民・職域) を対象としたメンタルヘルス研修を行った。

(5) サロン活動

地域住民のサロン活動の実施や、実施する支援団体、行政機関等に協力した。宮城県立精神医療センターへサロン活動事業を委託した。

(6) マスメディアを活用した情報提供

ラジオや新聞等のマスメディアを通して、本センターの活動、心の問題等についての情報を伝える活動を行った。

(7) 各種研修、イベント等の共催・後援の協力

- ・共催 5 件
- ・後援 1 件

<普及啓発事業実施状況>

	項目	回数	参加者数
(1)	普及啓発用品の配布	8回	
(2)	ホームページ管理・更新・情報提供	35回	
(3)	普及啓発研修	52回	1,769人
	震災後の心の反応	7回	257人
	精神疾患について	10回	148人
	話を聴く場合の基本技術（傾聴等）	2回	43人
	アディクション*1問題（アルコール問題等）について	4回	88人
	震災が子どもにもたらす影響	1回	100人
	ストレスと心のケア・セルフケアについて	12回	340人
	体の健康について	8回	177人
	職場のメンタルヘルスについて	5回	553人
	被災地の状況と本センターの活動について	3回	63人
(4)	サロン活動	113回	1,678人
(5)	マスメディアを活用した普及啓発活動	8回	
	テレビ・ラジオ	4回	
	新聞・雑誌	3回	
	その他	1回	
(6)	心の相談窓口の開設	35回	
(7)	学会・職能団体等での発表	12回	
(8)	報道機関対応	15回	
(9)	視察対応	10回	
(10)	その他	7回	
	計	295回	3,447人

*1 アディクション：嗜癖（しへき）のことで、悪い習慣を意味する。悪いと分かっているにもかかわらず過食・嘔吐・拒食・ギャンブル・仕事・アルコール・薬・人間関係にのめり込むことを指す。

2. 地域住民支援

被災者に対し精神疾患の予防、メンタルヘルスを目的とした事業を行った。

(1) 住民、自治体、他機関からの依頼による相談支援の実施

自治体、被災地支援を行っている様々な団体や地域住民からの依頼に基づき、訪問、来所、電話などの方法で相談支援を行った。【別添参照】地域住民支援活動状況

<支援方法別対応件数>

支援方法	件数
訪問による相談	3,807 件
来所による相談（相談窓口等での対応も含む）	880 件
電話による相談	1,310 件
集団活動の中での相談	87 件
ケース会議（対象者出席の場合）への出席	12 件
受診同行	115 件
その他	25 件
計	6,236 件

(2) 被災地の親子を対象としたキャンプの実施

平成 24 年度に引き続き、被災地の小学生とその保護者を対象としたデイキャンプを実施した。平成 25 年度は心身のリフレッシュとメンタルヘルスを目的として実施した。参加者は児童 26 名、保護者 3 名で、小学生にはレクリエーションや心理教育、保護者にはヨガなどのリラクゼーションや参加者同士の交流などを行った。

3. 人材育成

メンタルヘルスに関わる専門職や支援者を対象に、様々な課題についての知識の普及と人材育成のための事業を行った。

また、各種研修会の開催や、自治体、他機関への講師派遣を行った。

(1) 震災交流会の開催

行政職員や支援員など関係者の交流と情報共有などを目的に、『震災心のケア交流会みやぎ』を開催した。各地で活動を行ってきた複数の民間支援団体等の活動報告、先進地で活動された方の講演・グループワーク等を行い、平成 25 年度は、仙台市と石巻市、気仙沼市で開催した。

(2) メディアカンファレンスの開催

(独) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センターとの共催で、マスメディアの皆様にもメンタルヘルスと自死予防の知識を得ていただくとともに、マスメディアとメンタルヘルスの領域の相互理解を深めることを目的として実施した。平成 25 年度は、『被災地における自殺予防』をテーマに意見交換を行った。

(3) 震災関連テーマ別研修

震災に関連した課題に対応するための知識、技術の習得とネットワークの構築を目指し、各種研修を実施した。

- (4) アルコールを含むアディクションに関する研修
- ・アルコール依存症専門病棟を有する東北会病院にて、委託事業の一つとして、月1回1週間、本センター職員と沿岸部の精神科病院のスタッフを対象に研修を行った。
 - ・また、東北会病院の職員を各地に派遣し、支援者を対象とした研修を行った。
 - ・日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会（ASW協会）に事業委託し、精神保健福祉士を石巻市へ派遣して、支援者を対象とした研修会を行った。
- (5) メンタルヘルス、自死、精神疾患などに関する各種研修
- 様々な負担を抱える支援者に対し、職場のメンタルヘルスやセルフケアの必要性をテーマとした講演及び事例検討を実施した。
- (6) 被災地の状況とセンターの活動について
- 宮城県の被災地の状況と本センターの活動について、講演、研修活動を行った。
- (7) 各種研修、イベント等の共催・後援の協力
- ・共催 5件
 - ・後援 6件

<人材育成事業実施状況>

	項目	回数	参加者数
(1)	震災交流会	3回	221人
(2)	メディアカンファレンス	1回	24人
(3)	アディクション関連問題	26回	583人
	アルコールについて	25回	544人
	その他アディクションについて	1回	39人
(4)	支援技術研修	54回	1,123人
	傾聴について	28回	525人
	ストレスと心のケア・セルフケアについて	12回	433人
	その他	14回	165人
(5)	支援者のメンタルヘルス研修	10回	339人
(6)	職場のメンタルヘルスの研修	9回	456人
(7)	子どものメンタルヘルス研修	6回	468人
(8)	高齢者のメンタルヘルスについて	1回	10人
(9)	自死対策関連問題研修	11回	558人
(10)	精神疾患・障害についての研修	8回	306人
(11)	被災地の状況と本センターの活動について	7回	251人
(12)	事例検討	12回	169人
(13)	その他	19回	997人
	計	167回	5,505人

4. 支援者支援

自治体への専門職の派遣、専門的立場からの助言・指導、支援者を対象にした相談会の開催など、支援者に対する支援を行った。

(1) 自治体への専門職員の配置（出向）

自治体からの要望に応じて専門職を出向職員として派遣した。出向職員は、市や町に常駐して心のケアに関する専門的・技術的な支援を行うとともに、担当者の業務負担の軽減に努めた。活動内容は、健康調査への協力と調査後の継続対応、来所・電話・訪問による個別支援、被災者の心のケアに関する事業や取り組みへの支援など全般に及んだ。

出向先	職種・職員数・活動時期など
気仙沼市	精神保健福祉士 1名（週5日）
	臨床心理士 1名（週5日）平成25年6月～8月
石巻市	作業療法士 1名（週4日）
東松島町	精神保健福祉士 2名（週5日）
	臨床心理士 1名（週5日）
女川町	精神保健福祉士 2名（週5日）
塩釜市	精神保健福祉士 1名（週5日）平成25年7月～
名取市	精神保健福祉士 1名（週5日）平成25年6月～
岩沼市	看護師 1名（週5日）
石巻保健所	看護師 1名（週5日）

※期間の記載が無いものは、平成25年4月～平成26年3月まで派遣

(2) 専門的立場からの助言等

専門職を派遣し、被災者の心のケアに関する専門的な助言・指導、事業への協力を行うとともに、支援者のメンタルヘルスに関する支援も行った。

<支援内容及び件数>

支援内容	回数	対象者数
訪問・面談後の報告	189回	357人
専門的立場からの指導・助言（アルコール問題）	129回	320人
専門的立場からの指導・助言（ギャンブル問題）	2回	5人
専門的立場からの指導・助言（薬物問題）	1回	4人
専門的立場からの指導・助言（うつ）	125回	359人
専門的立場からの指導・助言（複雑性悲嘆）	10回	24人
専門的立場からの指導・助言（PTSD）	18回	60人
専門的立場からの指導・助言（虐待）	36回	123人
専門的立場からの指導・助言（その他）	326回	1,003人
地域の課題への対応	75回	390人
職場のメンタルケアへの対応	182回	334人
ケース会議（対象者欠席の場合）への出席	226回	1,008人
心の相談窓口の開設	38回	44人
健診支援	68回	678人
事務作業の支援	391回	513人
その他	108回	503人
計	1,924回	5,725人

5. 各種活動支援

自治体や保健所、各種支援団体、当事者団体等県内で活動している団体と連携し、その活動を支援することを目的とした事業を行った。

(1) 民間活動団体の連携を支援

民間活動団体同士の情報交換会の開催やその運営に協力した。

- ・遺族支援活動 わかちあいの会（仙台グリーンケア研究会） 7回
- ・宮城県精神看護研究学会実施支援、『こころの日』イベント活動支援（日本精神科看護技術協会 宮城県支部） 各1回
- ・AA（アルコールクス・アノニマス）*2 おじかオープンミーティング 1回
- ・岩沼里の杜仮設住宅住民対象 『里の杜あそび場』イベント協力 1回
- ・その他 2回

*2 AA：自ら飲酒問題があり、「酒をやめたい」と願う人々が集まる自助グループ。

6. 調査研究（再掲）

被災地や被災者の状況を把握するための調査・研究事業を行った。

(1) 実施事業

事業	内容
自治体職員を対象とした健康調査	自治体からの依頼により、気仙沼市の自治体職員に対する健康調査を実施した。その後のフォローとデータの解析は、東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座と気仙沼地域センターが連携して行った。
市町村社会福祉協議会職員を対象とした健康調査	宮城県社会福祉協議会からの依頼により、5市町村社会福祉協議会（気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、仙台市）の職員に対する健康調査を実施した。その後のフォローとデータの解析は、東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座と各地域センターが連携して行った。
基幹センター地域支援課調査研究	効果的な支援に役立つ調査を実施するため、文献検索、研究内容の検討等を行った。
統計システムの開発	業務報告を集約して全体の実績を明確化し、地域のニーズと必要な支援を明らかにするため、統計システムの開発を平成24年度に引き続き行った。
紀要の発行	本センターにおける活動の報告書として紀要第1号（平成24年度）を1,000部発行し、関係機関約700カ所に配布した。

(2) 分担研究

研究内容	分担研究項目
『災害後の子どものこころの支援に関する研究』（代表研究者：五十嵐隆 国立医療成育研究センター 総長）	『被災後の子どものトラウマからの回復のための心理教育に関する研究』
『被災地における精神障害等の情報把握と介入効果の検証及び介入方法の向上に資する研究』（代表研究者：金吉晴 国立精神・神経医療研究センター成人精神保健研究部部长）	『みやぎ心のケアセンターの活動分析』（分担：松本和紀 東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄附講座准教授 協力者として）

(3) 学会発表等

学会	内容
『東日本大震災後の実践報告』 第38回日本精神科看護学術集会	『みやぎ心のケアセンターでの活動報告』について ポスター発表をした。
『被災後の子どものトラウマからの 回復のための心理教育に関する 研究』国際シンポジウム	五十嵐班『災害後の子どものこころの支援に関する 研究』の成果の一環として、ポスター発表をした。
第109回 日本小児精神神経学会	講話（特別講演『被災地の子供たちについて』）
第3回 アジア・太平洋発達障 害学会	シンポジストとして参加した。
第31回 日本小児心身医学会	シンポジスト兼座長として参加した。（テーマ：『災 害時の子どものこころ支援』）
第77回 日本心理学会	シンポジストとして参加し、話題提供を行った。 （テーマ：『中学校における自殺予防教育プログラ ムGRIP』）
第54回 日本児童精神神経医学 会総会	共同シンポジウムのシンポジストとして参加し、 話題提供を行った。（テーマ：『Interventions for mental health and well being for traumatized children and adolescents』）
関西アルコール関連問題学会	分科会にて報告した。（テーマ：『震災とアルコー ルについて』）
『津波被災地の子どもに対する心 理教育に関する研究』国際シン ポジウム	国際シンポジウム『災害と子どものメンタルヘルス』 にシンポジストとして参加し、話題提供を行った。
第7回心理教育・家族教育ネッ トワーク	シンポジストとして参加し、話題提供を行った。 （テーマ：『心理教育はどこへいくのか』）
日本公衆衛生学会シンポジウム 『東日本大震災後3年目の復興活 動の共有』	シンポジスト兼コーディネーターとして、参加し た。（テーマ：『子どものこころの現状と課題』）

(4) 調査・研究への協力

調査・研究	内容
東北福祉大学研究事業協力 (2日間)	被災地の支援者のメンタルヘルスについての研究 (渡部純夫教授)。箱庭療法実施後、面接を行った。
PFA研究会	WHO版PFAの普及に関する研究に協力のため、 関係者が集まる意見交換会へ参加した。
宮城大学看護学部、真覚健教授 の実施している調査・研究への 協力	東日本大震災生活復興プロジェクトで被災地での ヒヤリング結果のまとめを行うため、気仙沼市保 健師とともに地域の課題について情報提供した。
厚生労働省科学特別研究事業(代 表研究者：統計数理研究所 椿 広計教授)	『自殺総合対策大綱の見直しを踏まえた自殺対策発 展のための国際的・学際的検討』パネルディスカッ ション(意見交換会)へ参加した。

7. その他の活動

(1) 職員全体ミーティング・研修

職員全員が一堂に会して、業務上の体験や思い、考えを共有し、全体のスキルアップを目的とするとともに、職員のメンタルヘルスの維持のため、隔月第4金曜日に計6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月)開催した。

(2) 3県心のケアセンター職員対象研修等

東日本大震災を契機に設立された宮城、福島、岩手の心のケアセンター職員の交流や情報共有を目的として、研修会や勉強会等を行った。

- ・ 3県心のケアセンター合同職員研修
- ・ 3県心のケアセンター等連絡会議
- ・ 『自死後のポストベンション』宮城・福島合同勉強会

【地域住民支援活動状況】
1.相談実施状況

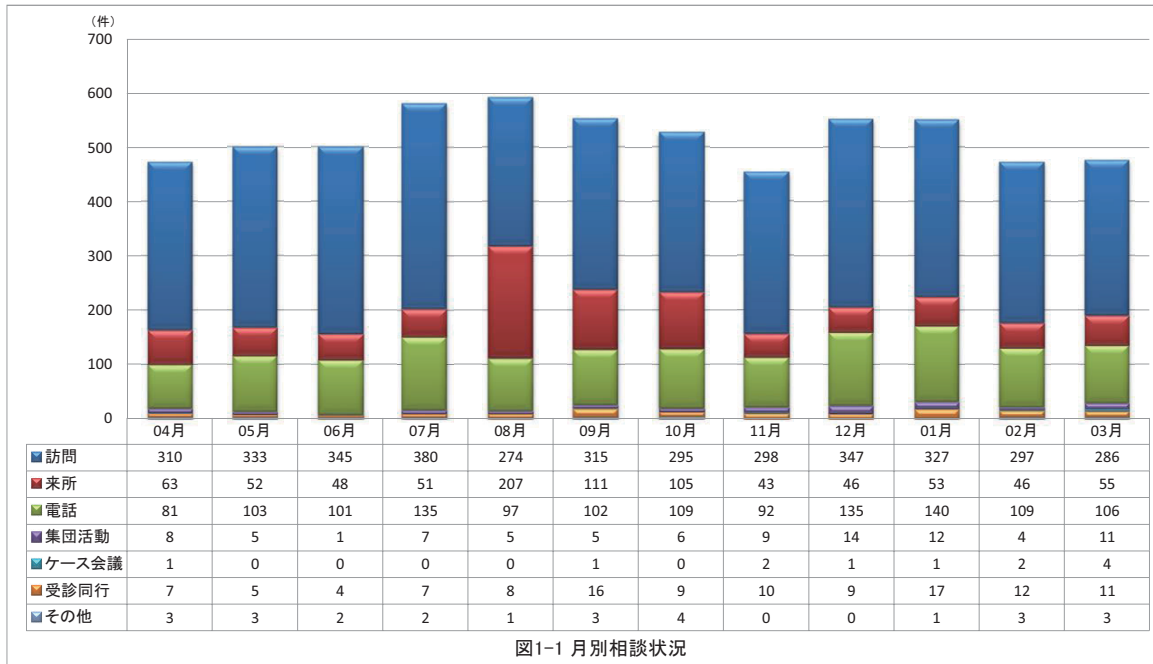


図1-1 月別相談状況

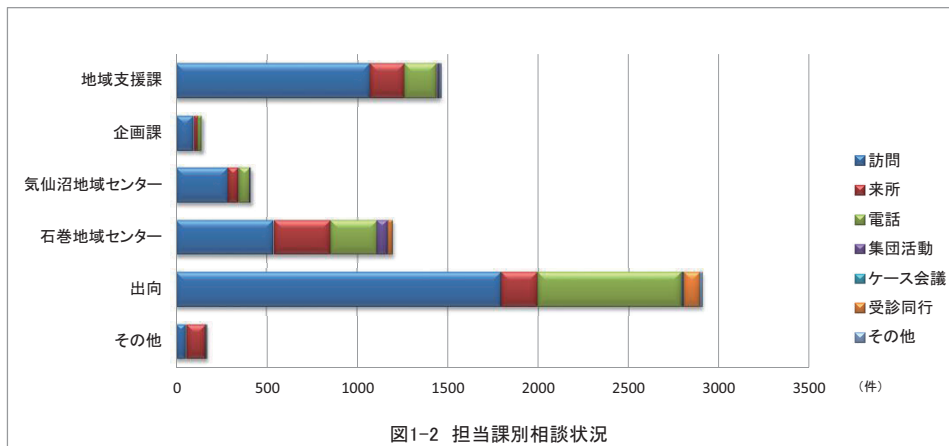


図1-2 担当課別相談状況

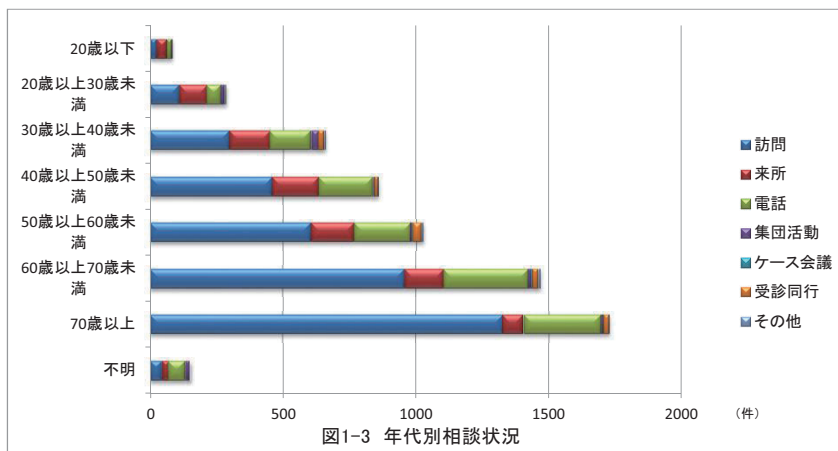
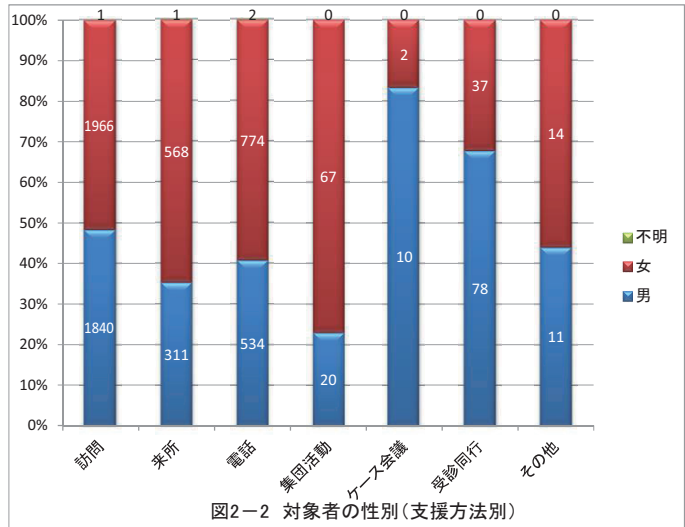
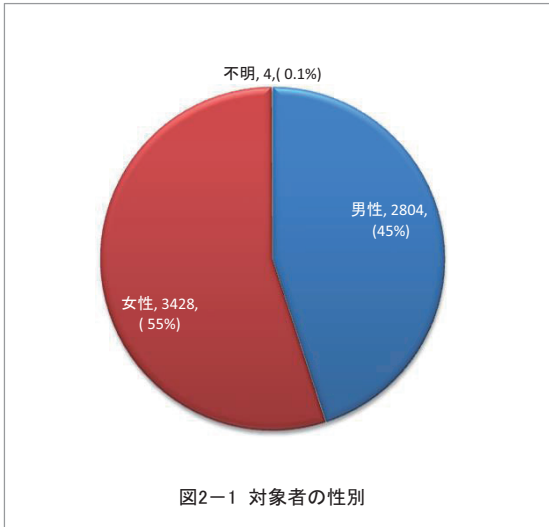
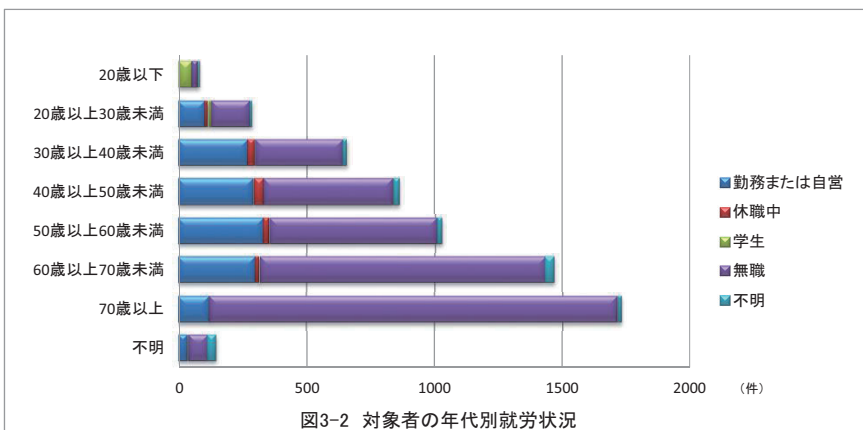
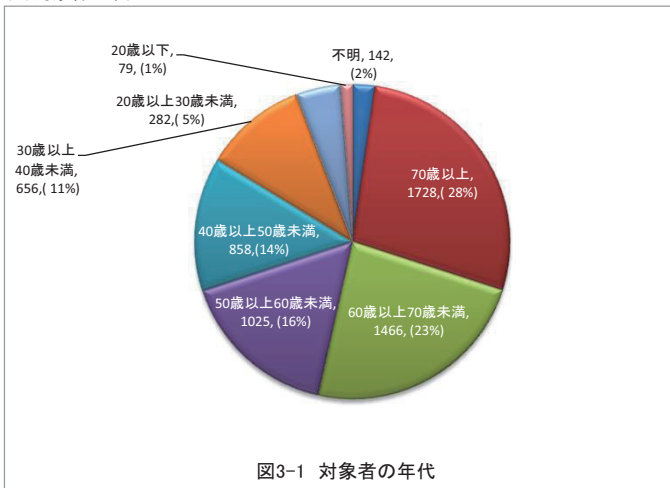


図1-3 年代別相談状況

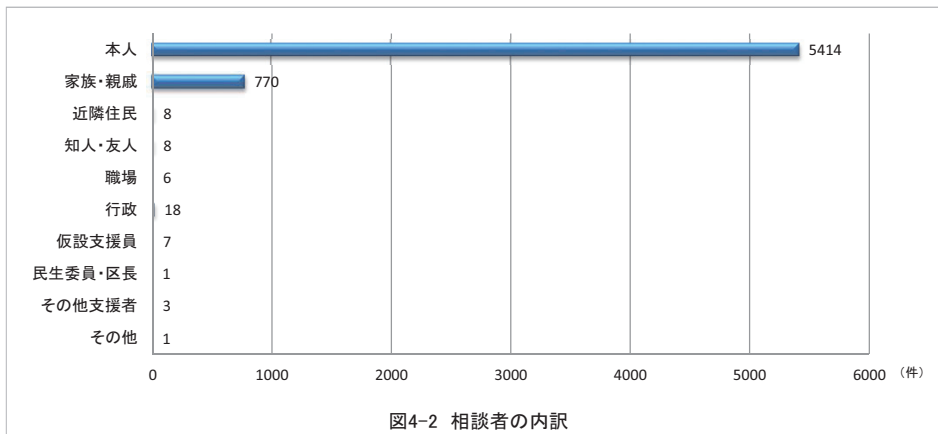
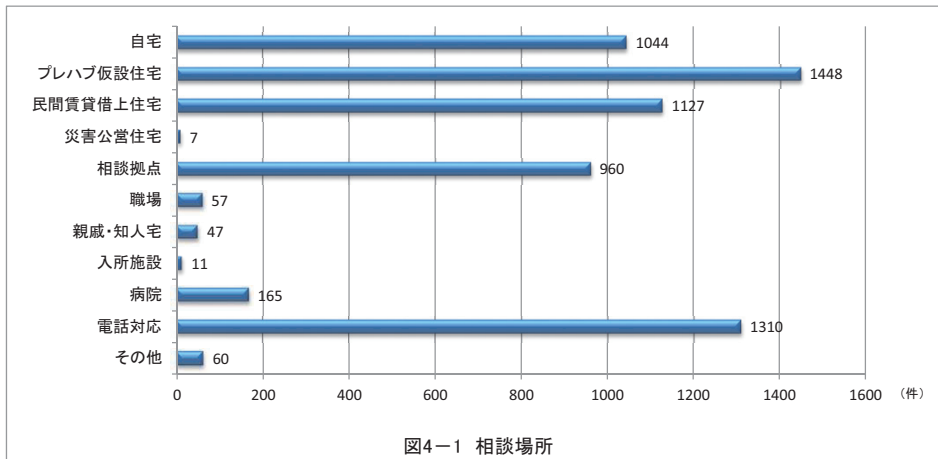
2.対象者の状況
(1)対象者の性別



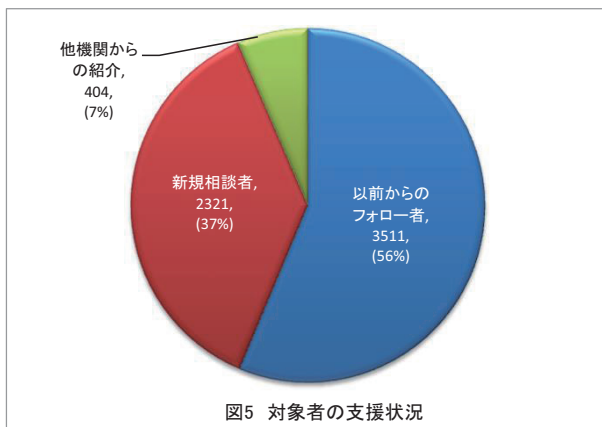
(2)対象者の年代



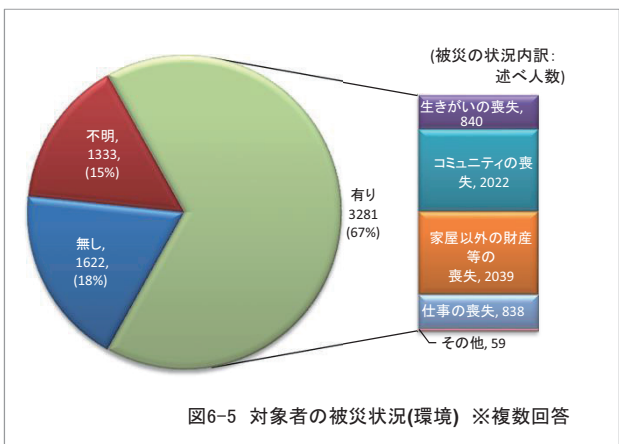
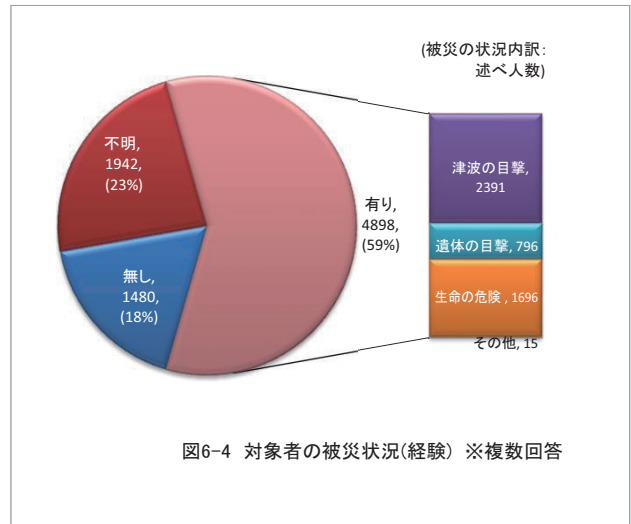
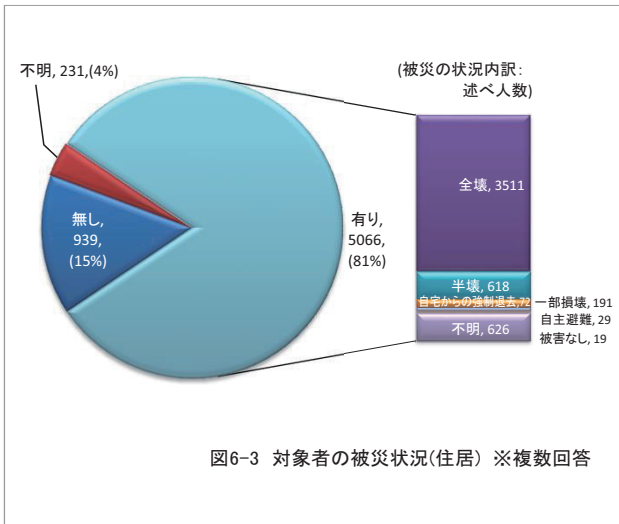
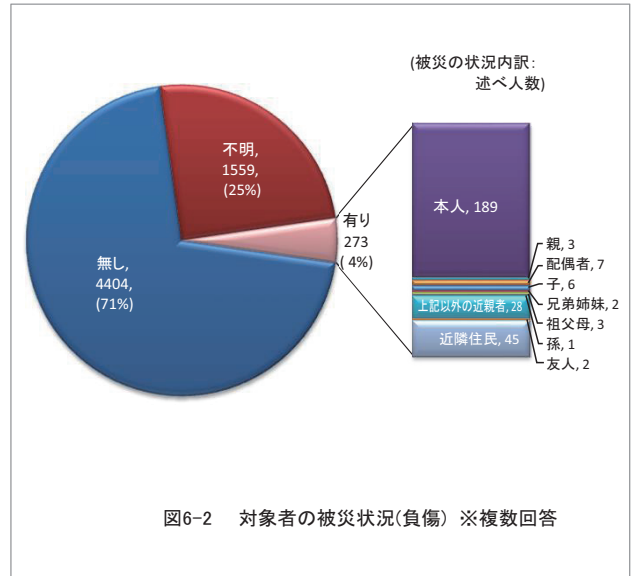
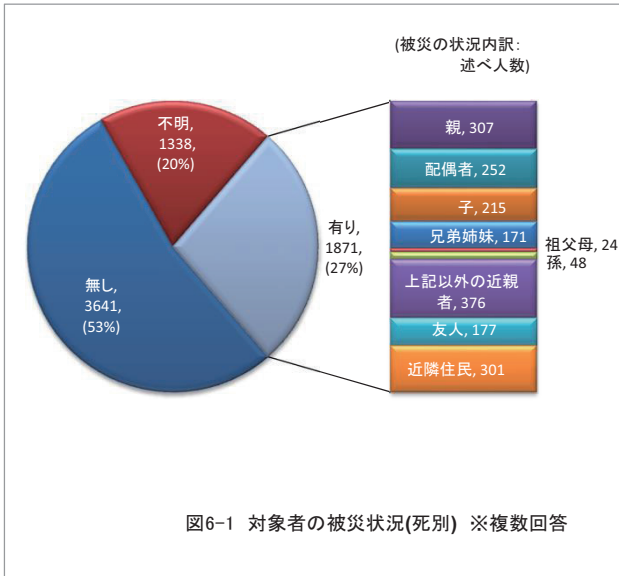
(3) 相談場所・相談者



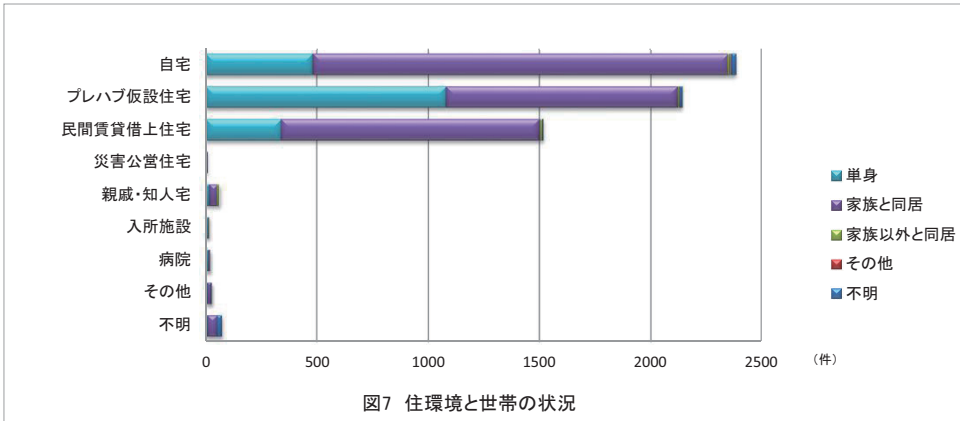
(4) 対象者の支援状況



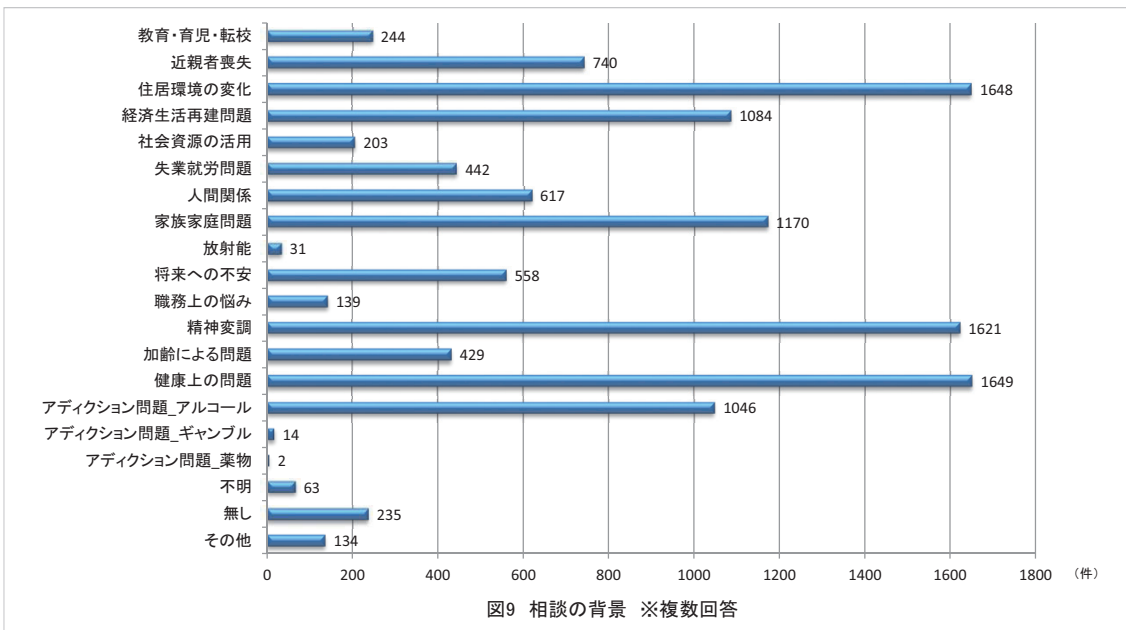
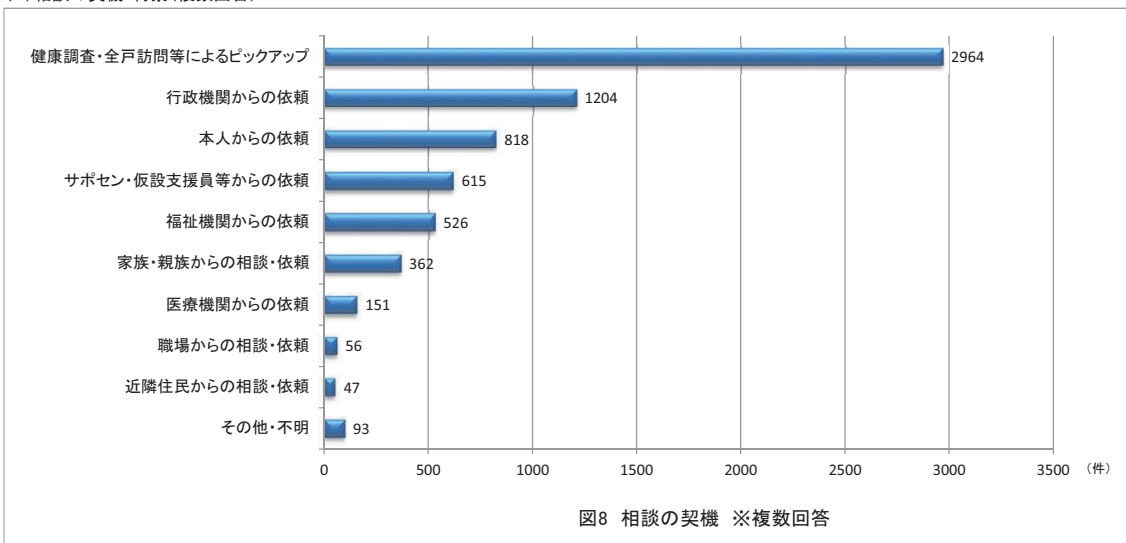
(5) 対象者の被災状況(複数回答)



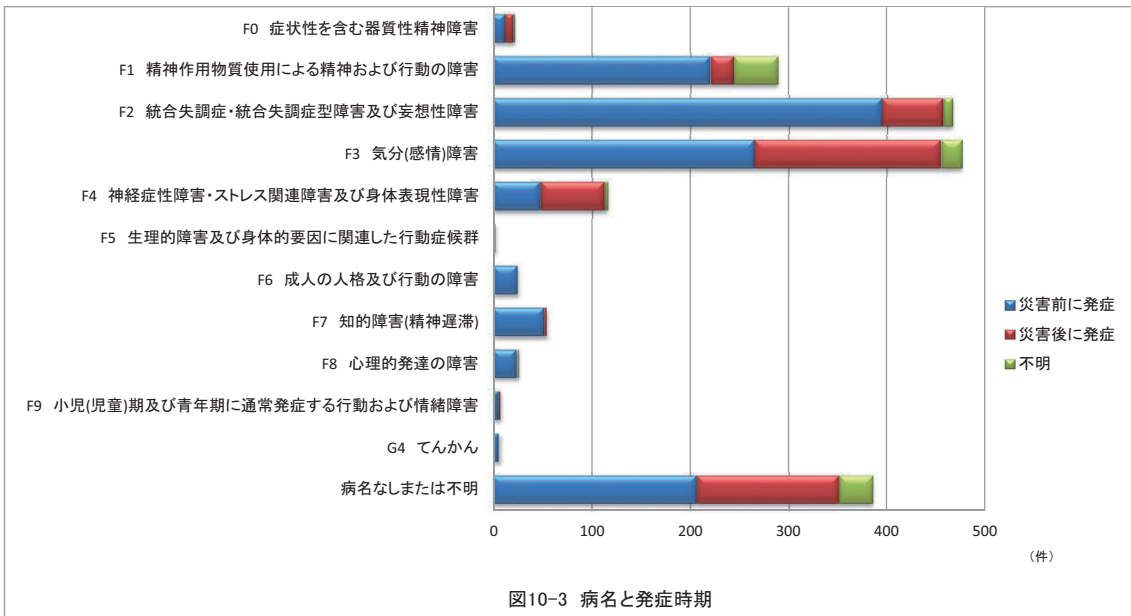
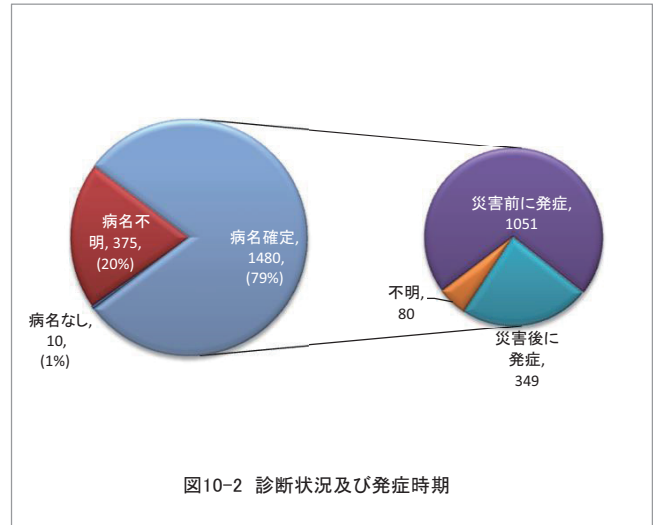
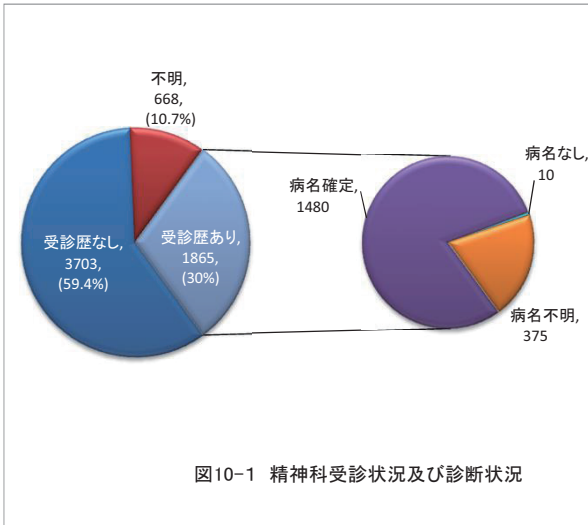
(6) 住環境と世帯の状況



(7) 相談の契機・背景 (複数回答)

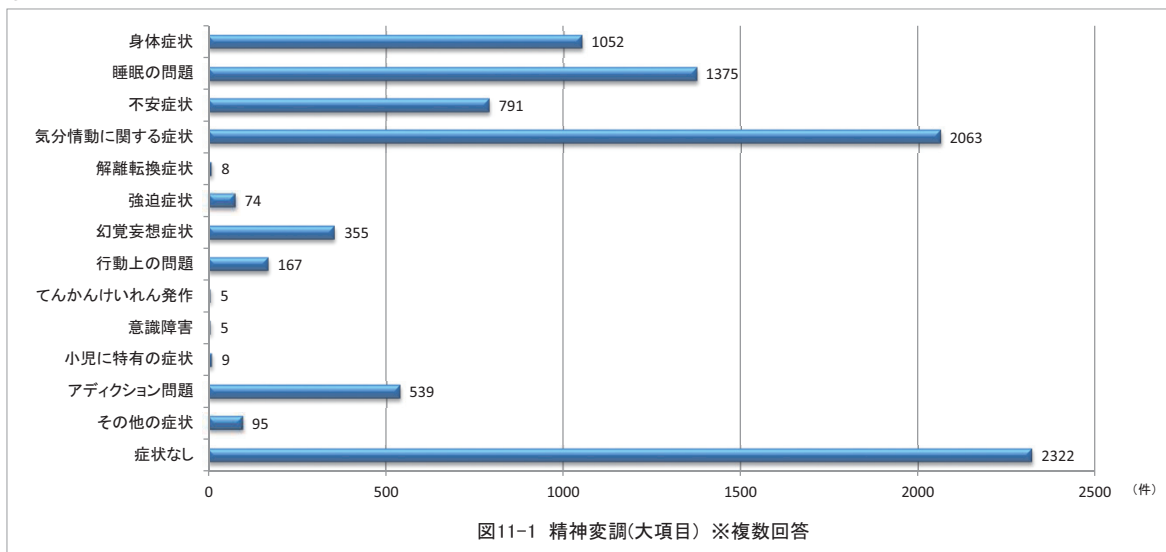


(8) 精神科受診・診断状況等

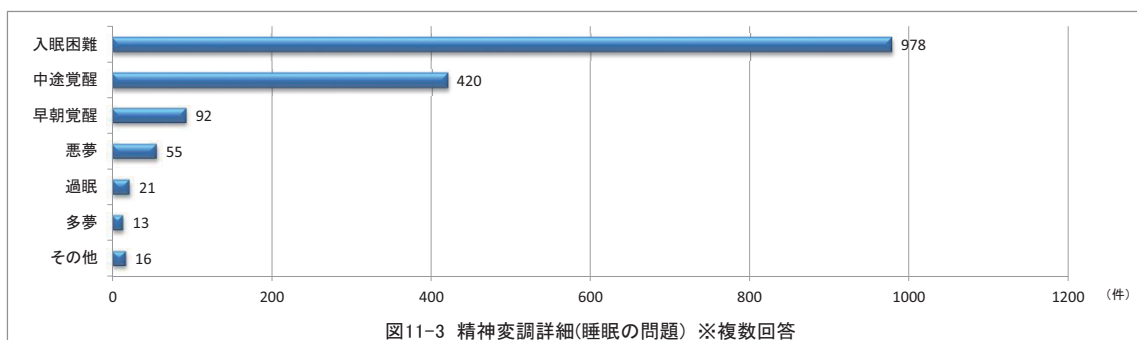
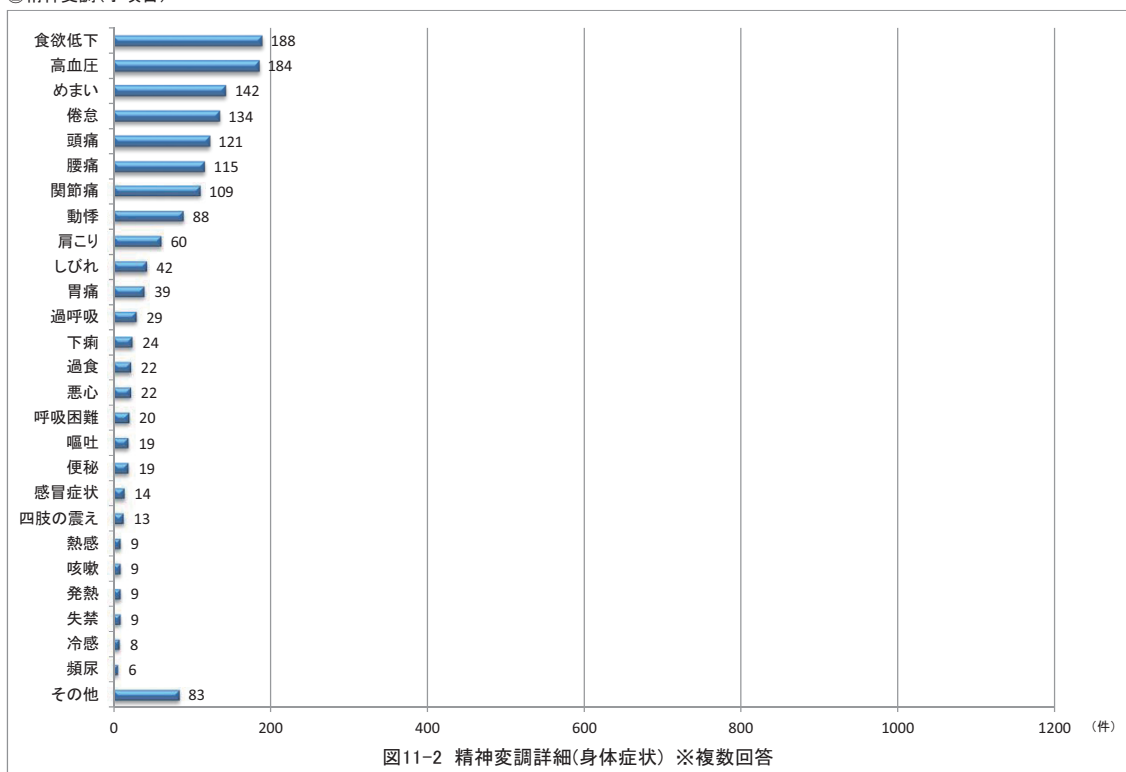


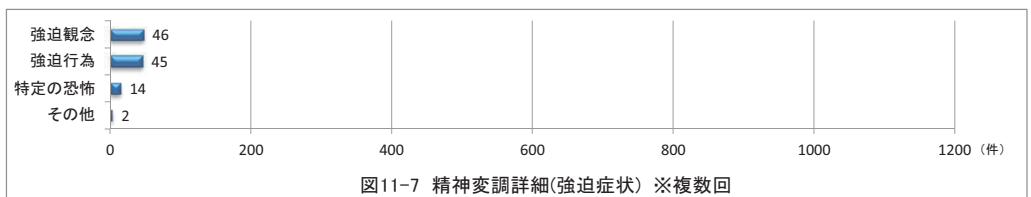
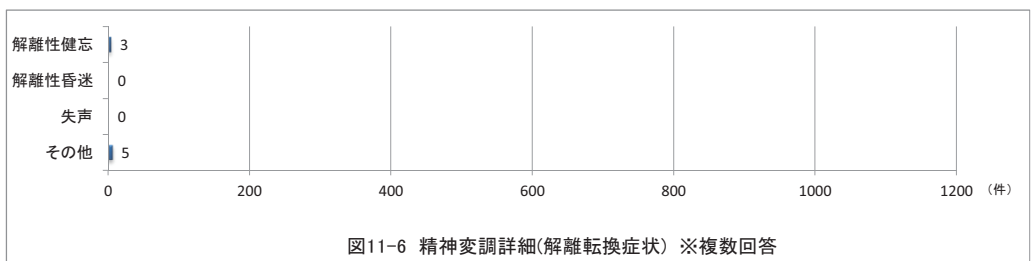
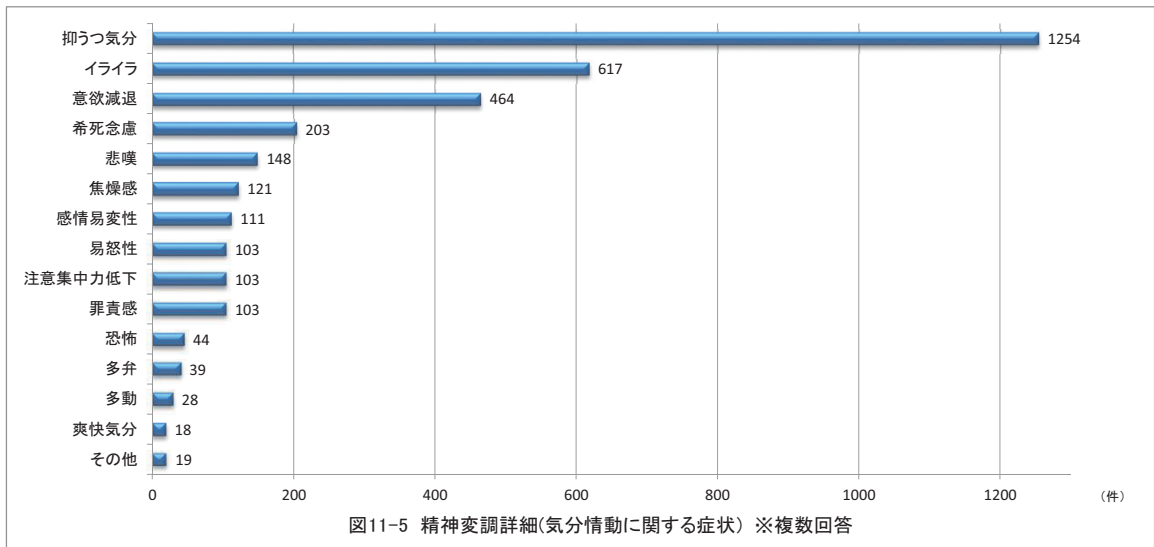
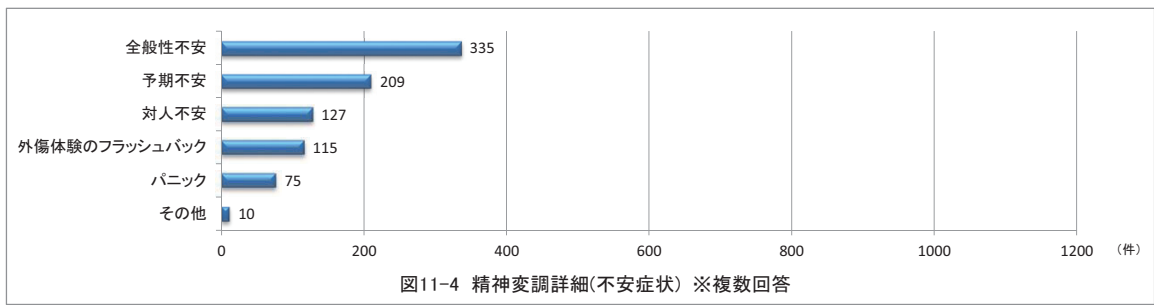
(9) 精神変調 (複数回答)

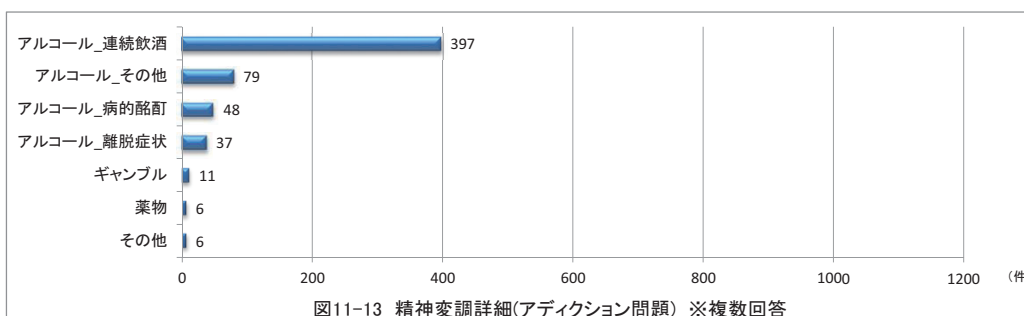
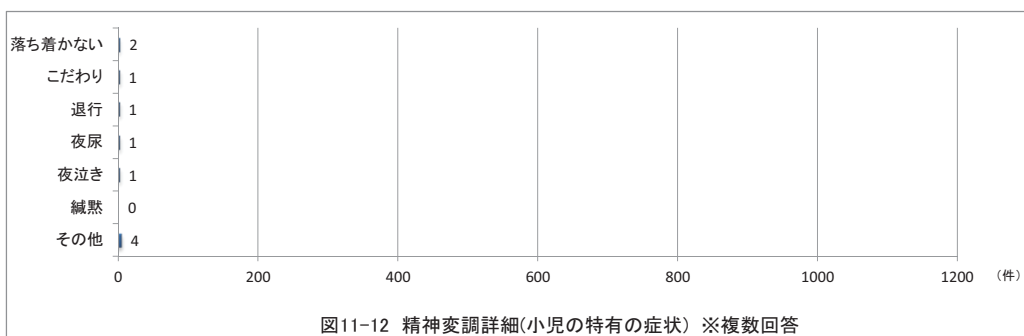
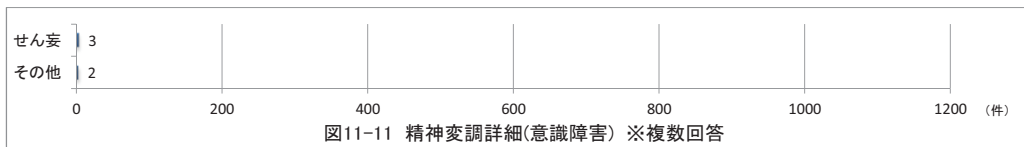
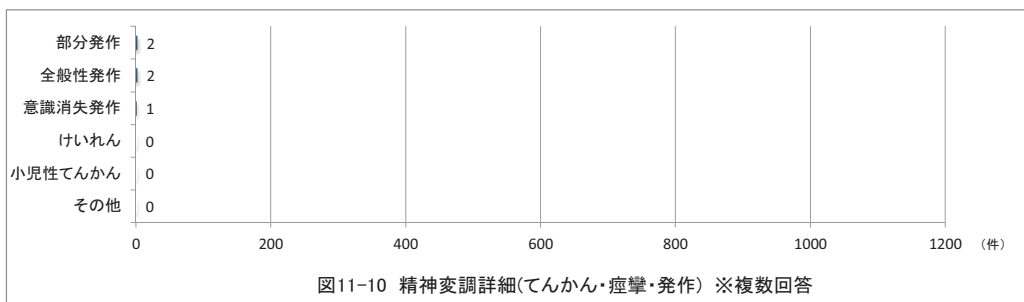
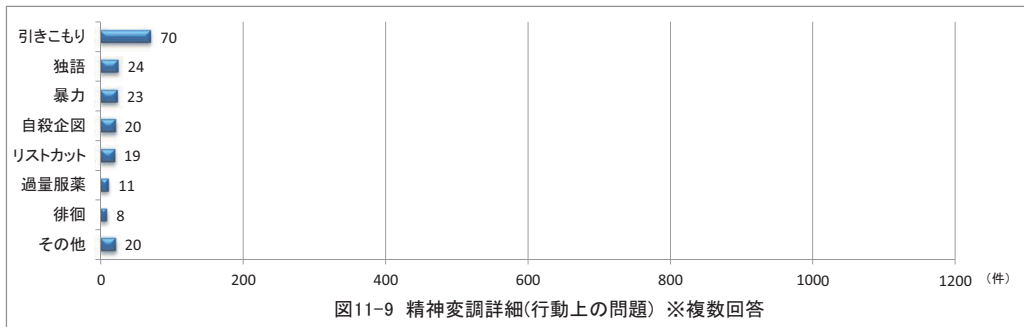
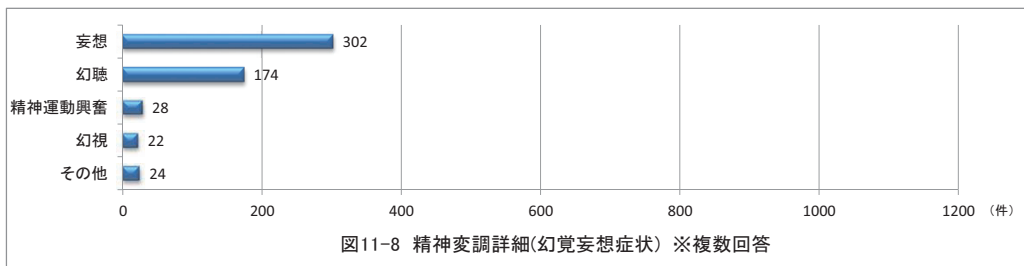
① 精神変調 (大項目)



② 精神変調 (小項目)







(10) 対応の状況及び継続者への対応等

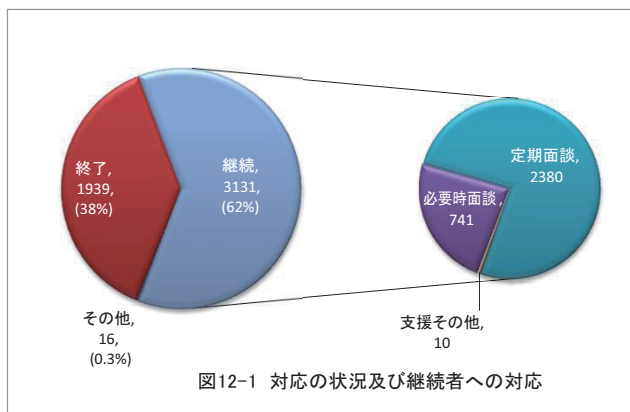


図12-1 対応の状況及び継続者への対応

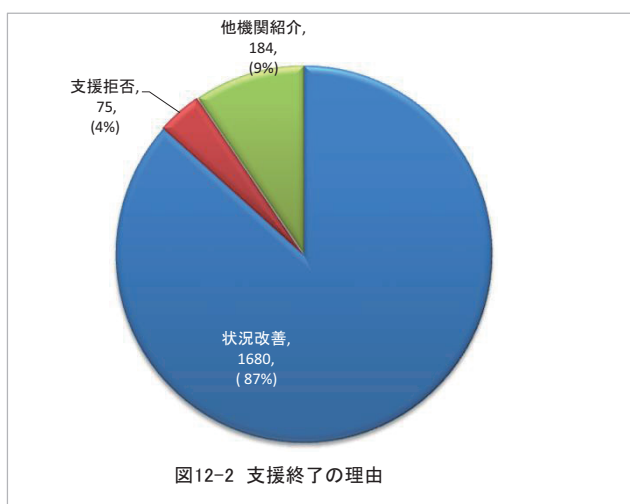


図12-2 支援終了の理由

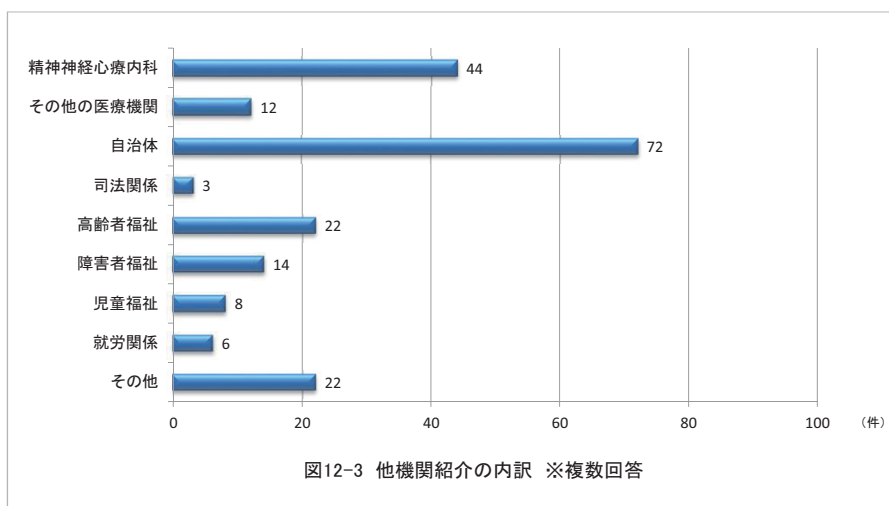


図12-3 他機関紹介の内訳 ※複数回答